

『あなたが世界を変える日』

国連地球環境サミット(1992年6月ブラジル リオ・デ・ジャネイロ)での、

12歳のセヴァン・カリス=スズキのスピーチ

「・・・オゾン層にあいた穴をどうやってふさぐのか、あなたは知らないでしょう。
死んだ川にどうやってサケを呼び戻すのか、あなたは知らないでしょう。

絶滅した動物をどうやって生きかえらせるのか、あなたは知らないでしょう。

そして、今や砂漠となってしまった場所にどうやって森をよみがえらせるのか、
あなたは知らないでしょう。

どうやって直すのかわからないものを、こわしつづけるのはもうやめてください。

・・・もし戦争のために使われているお金をぜんぶ貧しさと環境問題を解決する
ために使えば、この地球はすばらしい星になるでしょう。私はまだ子どもだけど
そのことを知っています。

学校で、いや、幼稚園でさえ、あなたたち大人は私たち子どもに、世のなかでど
うふるまうかを教えてくれます。

たとえば、争いをしないこと、話しあいで解決すること、他人を尊重すること、
散らかしたら自分でかたづけること、ほかの生き物をむやみに傷つけないこと、
わかちあうこと、そして欲ばらないこと。

ならばなぜ、あなたたちは私たちにするなと言うことをしているんですか。

なぜあなたたちが今こうした会議に出席しているのか、どうか忘れないで下さい。

そしていったいだれのためにやっているのか。

それは、あなたたちの子ども、つまり私たちのためです。

みなさんがこうした会議で、私たちがどんな世界に育ち生きていくのかを決めて
いるんです。

・・・おききしますが、私たち子どもの未来を真剣に考えたことがありますか。

・・・あなたたちはいつも私たちを愛しているといえます。しかし、いわせてく
ださい。

もしそのことばがほんとうなら、どうか、ほんとうだということを行動でしめし
てください。」

(発行 学陽書房 著者 セヴァン・カリス=スズキ 編・訳者 ナマケモノ倶楽部)

『あなたが世界を変える日 12歳の少女が環境サミットで語った伝説のスピーチ』から抜粋)

「セヴァン・カリス＝スズキ」1979年生まれ。
カナダ在住 日系4世の女性です。

1992年6月、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された国連地球環境サミットの、世界各国の代表が集まる政策会議の席上で子どもを代表して、12歳の彼女がスピーチをしました。

彼女達は国連に呼ばれたわけではありません。自分達で焼いたお菓子や持っている本を売り、カンパを募って旅費を貯め、世界中が未来を犠牲にするような開発を止めるよう訴えるために自ら参加しました。

NGOのブースで活動しながら、国連に働きかけ6分間の話す時間を獲得したのです。

「今日の私の話には、ウラモオモテもありません」から始まるその奇跡のスピーチは各国代表や政治家などの大人達に訴えかけ、スピーチが終わったとき人々は立ち上がり涙をながしたそうです。

是非皆さんも機会があったら本やインターネットなどで何を大人達に伝えたか調べてみてください。

その後、彼女は世界中を駆け巡りスピーチを行い、国連会議に招待され「国連地球憲章」を作る青年代表にもなりました。

大学で生態学と進化生物学を学んだ後、現在も次の子ども達に素晴らしい地球を残すため精力的に活動しています。

この時のこのスピーチをそのまま、あなたにお伝えします。

未来を犠牲にするようなことをしていませんか。

未来の子ども達に素敵な地球を、素敵な羽幌を渡すことができますか、と。